

平成 26 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校

学校長 河 本 史 幸

評 価 日		平成 26 年 6 月 17 日 (火)			
委 員	氏 名	年齢	性別	資格・所属等	委員長
	小谷 幸久	65	男	本校元教頭	○
	宮本 いずみ	48	女	ビジネスマナーインストラクター	
	秋田 昌志	52	男	かいけ幼稚園・かいけすまいる保育園副園長	
	岡野 博道	58	男	本校元PTA会長	
	井上 由香	43	女	PTA会長	
評 価 ・ 提 言				学校の所見・改善策等	
<p>1. 前年度の最終評価について</p> <p>平成 25 年度末の第 2 回学校関係者評価委員会で評価と提言をしていただいている。今回はその資料に基づいて説明と本年度の改善点について確認をした。</p> <p>2. 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>学校目標達成のために重点を置いた事業について説明をした。評価の具体的な基準について、できるだけ数値化をめざしている。</p> <p>3. 今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の障がいに違いがあるので、できることを見つけて伸ばして欲しい。 <p>(2) 目標達成のための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労に関しては、少しずつでも企業の意識を変えるアクションをして欲しい。 進路については早い段階（中学部）で方向性を見極め、保護者と学校が連携して取り組むべきである。 雇用側は即戦力を求めているので、幼・小学部のころから指導に取り組むことが大切だと思う。 <p>(3) 評価基準及び評価指標について</p> <p>特になし</p>				<p>○前年度の自己評価(最終)、保護者評価、児童生徒評価、関係者評価などを元に、本年度の目標を設定し、取り組みを進めている。</p> <p>○病弱教育部門が開設に向けて研修会を実施するとともに、肢体不自由教育充実に指導内容の系統性と客観的な評価に取り組んだ。</p> <p>○学校経営方針説明(校長)病弱教育部門の開設(高等部)とiPad60台導入が取り組みに加わっている。</p> <p>○進路にかかわる情報提供に努めているが、本人と保護者のニーズに寄り添えるように努める。また、キャリア教育という点からも幼・小学部から取り組みを進める。</p> <p>○評価については、昨年度の提言を参考にしてわかりやすいものにしていく。主</p>	

3. 学校運営や予算に関する提言

- ・保護者アンケートの中の「教員の挨拶がよくない」とあることが意外だった。
- ・社会に出たら挨拶は基本である。
- ・年度初めの引継ぎがうまくできているのかと思う保護者がある。引継ぎに親も加わってもよいのではないかと思う。

観的にならないように児童・生徒、保護者、行事等への参加者アンケート、関係者評価委員の方の助言を取り入れる。

○挨拶や電話の対応については指導を続ける。

○映像記録を利用するなど引継ぎ方法を検討する。